

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力をもった人材を育成する。 (2) 文武両道をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3) 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心をもって社会に貢献する人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) (1) グローバルリーダーとなるための資質を備え、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりすることができる生徒 (2) 「生命」を大切にす る心もち、他人の価値観の多様性を認め、互いを尊重できる人権意識をもった生徒 (3) 自己の能力や適性、興味を理解して自ら主体的に将来の進路を選択・決定する態度をもつことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) (1) 知的好奇心を喚起し、主体的な学習態度や人間性を育成するための、質の高い授業の実施 (2) 将来の社会貢献につながるような、幅広い分野での専門的な内容の体験プログラムの提供 (3) 探究的な学びや個に応じた学びを重視した適時・適な支援	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) (1) 不屈でたくましい精神力をもち、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を、仲間とともに目指したいと考える生徒 (2) 勤労を尊び、良心や思いやり、奉仕の心をもって社会に貢献できることを、仲間とともに目指したいと考える生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校アンケートの結果は、概ね学校に好意的な評価を得た。特に「ICTを活用した学習活動が学習の理解につながっている」の項目については、保護者が95.6%、生徒が93.2%と高い評価が得られており、ICTに関する授業研究は概ね良好である。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・観点別学習状況評価を組織的かつ計画的に実施。 ・MetaMoJiやICTを活用した授業のさらなる研究。 ・観点別学習状況評価を受けた教員の指導の改善。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教科主任を通じ、教科会と情報提供および情報共有を行う。 ・ICT推進担当、情報管理担当を中心とした研修会等の実施。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 観点別学習状況評価の研究 (2) 授業研究 (3) 授業改善	(1) 3観点の評価規準や評価方法について、教科内で明確にし、評価に関する実践事例を蓄積し、共有。学校として組織的かつ計画的に取り組む。 (2) MetaMojiなどICT機器を効果的に用いた教材開発や指導法の改善。ICT活用の成果および効果についての検証。ICTを活用した授業の件数、実施した教員数を指標とする。 (3) 観点別評価の実施に伴い、教師が指導の改善を図る。授業アンケートの結果と教員同士の相互評価の活用。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 各教科で評価規準や評価方法を作成し、観点別学習状況評価を実施した。 (2) 各先生方がICT機器を用いた授業研究を行っている。各教科でICTを活用した研究授業や公開授業を行っ	(1) 前期末評価を参考に年度末評価の改善を図った。 (2) 学校アンケートの回答結果（ICT活用：保護者95.6%、生徒93.2%）。職員研修の実施。	A B C D A B C D

た。 (3) 授業アンケートの結果や教員 同士の相互評価を受け、授業改善を 実施した。	(3) 授業アンケートの回答結果（主体的に 参加できる授業：95.0%、教材・用具が工夫 ：96.3%）。	㊤ B C D
12 成 果 ・ 課 題	○出席停止の生徒に対して、オンライン授業を実施することができた。 ○様々な制限がある中で、ほぼ計画通りに学校行事をすることができた。 ○保護者からの出欠席連絡をデジタル化することができた。 ・ ▲令和7年度入試に向けて共通テストや各大学の情報を収集し、教育課程の見直し や授業内容の変更も必要である。 ▲観点別学習状況評価については、よりさらなる検討・研究が必要。	総 合 評 価 A ㊤ C D
13	来年度に向けての改善方策案 ・ 観点別学習状況評価と評定の状況が著しく乖離しないよう、評価規準や評価方法について、教科内で再検討する。 ・ 各教科でタブレットなどのICT機器を用いた研究授業を実施し、教科内で実践事例を蓄積していく。 ・ 観点別学習状況評価を受け、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるよう、支援を図る。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】 ・学校全体だけでなく、今後も生徒一人ひとりに目を向けて指導を継続してほしい。

【別添2】(様式例2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校 学校番号 1

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力をもった人材を育成する。 (2) 文武両道をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3) 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心をもって社会に貢献する人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) (1) グローバルリーダーとなるための資質を備え、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりすることができる生徒 (2) 「生命」を大切にす る心もち、他人の価値観の多様性を認め、互いを尊重できる人権意識をもった生徒 (3) 自己の能力や適性、興味を理解して自ら主体的に将来の進路を選択・決定する態度をもつことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) (1) 知的好奇心を喚起し、主体的な学習態度や人間性を育成するための、質の高い授業の実施 (2) 将来の社会貢献につながるような、幅広い分野での専門的な内容の体験プログラムの提供 (3) 探究的な学びや個に応じた学びを重視した適時・適切な支援	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) (1) 不屈でたくましい精神力をもち、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を、仲間とともに目指したいと考える生徒 (2) 勤労を尊び、良心や思いやり、奉仕の心をもって社会に貢献できることを、仲間とともに目指したいと考える生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「進路説明会 (PTフォーラム) 等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」について、よくあてはまる、ややあてはまるが保護者92.5%、生徒95.1%であった。「生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」について、よくあてはまる、ややあてはまるが保護者91.5%、生徒95.5%であった。保護者、生徒ともに高い評価をされている。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 教科学力の充実と進路希望達成のための支援 2 進路選択決定能力の育成 3 グローバルリーダー養成事業への参加	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・年次会と進路指導部間の連絡を密にするために、年次会にて情報提供、情報共有を図る。また、進路指導部から助言も行う。 ・各教科と連携をして、授業改善のための提案や情報提供を行う。 ・年次と連携し、FPTにおける探究活動を充実させる。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 中堅大学への進路意識を高める指導 ・学力分析をし、一定水準以上の学力を保証 (2) 大学入試改革へ向けての対応 1 自己分析の強化 2 ポートフォリオの作成 (3) グローバルリーダー養成事業の活用 1 参加率の向上 2 ポートフォリオの作成からキャリア指導	(1) 1年生・2年生の第2回進研模試で、偏差値50以下の生徒数を0にする。 (2) 各模試のふり返しシート、年度末に生徒によるアンケート (3) 1年間の参加者名簿一覧、「活動の記録」用紙の枚数と学校評価アンケート	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 中堅大学への進路意識を高める指導 ・1・2年生対象に、英語・数学・国語の3教科に関する学習相談会を実施し、基礎学力を定着させるために基礎学力講座を実施。	①生徒が基礎学力講座、学習相談会に主体的に参加する雰囲気であったか。外部指標の分析を生徒にフィードバックしたり、	A (B) C D

<ul style="list-style-type: none"> ・進研模試などの外部指標を利用し、各年次で分析し、担任、教科担任にフィードバックする。生徒が苦手科目の学習に取り組み、学習バランスを意識するよう働きかける。 (2) 大学入試改革へ向けての対応 ・模試の自己採点で、学力を客観的に分析し、メタ認知能力を向上させる。 ・FPTでの各活動、グローバルリーダー養成事業や校外活動への参加の記録を「活動の記録」用紙でまとめさせて、キャリアパスポートファイルで管理する。 (3) グローバルリーダー養成事業の活用 ・グローバルリーダー養成事業へ、少なくとも1人1講座は受講できるようにする。そのためにも年次、部顧問との連携をし、生徒が積極的に参加できるような環境を整える。 ・作成したポートフォリオを担当が、2者懇談、3者懇談で活用し、生徒のキャリア意識を高める。 	<p>授業改善につなげたりすることができたか。</p> <p>②生徒が模試の振り返りシートで、自己の学力を振りかえることができたか。また、FPTファイルに「活動の記録」を保存し、自己の活動の軌跡を残すことができたか。</p> <p>③生徒はグローバルリーダー養成事業の講座を受講できているか。また、ポートフォリオを活用できているか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果 課題	<p>○基礎学力講座、学習相談会を1回ずつ実施できた。生徒の学習不安に丁寧に対応することができた。</p> <p>○グローバルリーダー養成事業がほぼ予定通り実施することができた。また、コロナ前と同様に全ての講座を対面で実施できたため、生徒にとって非常に有効でキャリア意識を高める貴重な機会となった。</p> <p>▲第2回進研模試の成績で偏差値50以下の生徒は1年次生が1名、2年次生が7名いた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進研模試の成績で、偏差値50以下になった生徒に対して、各教科の成績分析をもとに、年次、進路指導部・教務部とさらに連携して、該当生徒の学力向上のためのバックアップ体制を確立する。また、学習に不安を感じている生徒に対しては、今年以上に学習相談会、基礎学力講座への参加を呼びかけて、生徒に寄り添った学習支援を図る。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「活動の記録」をファイリングすることは、自分の活動を振り返ることができる大変良い手法である。 ・グローバルリーダー養成事業は、生徒一人一人を大切にしている。今後も内気な生徒や、目立たない生徒でも生徒一人一人に目を配ってほしい。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力をもった人材を育成する。 (2) 文武両道をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3) 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心をもって社会に貢献する人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	(1) グローバルリーダーとなるための資質を備え、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりすることができる生徒 (2) 「生命」を大切にできる心を持ち、他人の価値観の多様性を認め、互いを尊重できる人権意識をもった生徒 (3) 自己の能力や適性、興味を理解して自ら主体的に将来の進路を選択・決定する態度をもつことができる生徒	(1) 知的好奇心を喚起し、主体的な学習態度や人間性を育成するための、質の高い授業の実施 (2) 将来の社会貢献につながるような、幅広い分野での専門的な内容の体験プログラムの提供 (3) 探究的な学びや個に応じた学びを重視した適時・適切な支援	(1) 不屈でたくましい精神力をもち、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を、仲間とともに目指したいと考える生徒 (2) 勤労を尊び、良心や思いやり、奉仕の心をもって社会に貢献できることを、仲間とともに目指したいと考える生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせるための指導を行っている」について、よくあてはまる、ややあてはまるが保護者95.9%、生徒95.7%であった。「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」については保護者96.2%、生徒97.7%と高い評価を得た。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇命を大切にできる心や態度の醸成 ◇人権意識の涵養と情報モラル意識の高揚 ◇個に応じた適時・適切な支援		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・年次に関わらず全生徒指導部職員による生徒指導・教育相談体制 ・生徒指導委員会・いじめ対策検討委員会の実施 ・教育相談支援員の活用・担任との密な連携		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生活委員会を中心としたMSリーダーズ活動の活性化。 (2) 情報モラルに関する人権LHRの実施。 (3) 臨床心理士によるサポート制度、通級制度の活用。医療機関など外部機関との連携。	(1) 交通事故件数・ヘルメット着用者数・命の尊さ講話アンケート (2) 校内迷惑調査・ネットパトロール報告件数 (3) 教育相談・カウンセリング活用状況心のアンケート		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・MSリーダーズによる朝の挨拶、ヘルメット啓発活動の拡充。(生徒会・有志生徒。) ・情報モラル講話・人権LHR・スマホフリーデーの実施。 ・活発なカウンセリング、外部連携。	①事故に気をつけ、命を大切にできる意識を醸成できたか ②情報モラル意識を高め、違反を防ぐことができたか ③個に応じた適時・適切な教育相談活動を実施できたか	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D	
12 成果課題	○交通事故の減少(1月現在22件) ○ヘルメット着用者数の増加(10月10%⇒12月17%) ○カウンセリング18名、スペシャリストサポート事業カウンセリング24名 ・○心のアンケート後の懇談(4~12月約200件) ▲情報モラル違反による大きなトラブルの発生。 ▲自転車走行マナーや送迎マナー、その他様々なモラルの欠如によると思われる迷惑行為。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
13 来年度に向けての改善方策案	・交通事故や情報モラル違反の未然防止のための生徒主体の活動の拡充。 ・情報モラル講話・スマホフリーデー等に関する効果的な実施の検討。 ・心理テスト「i-check」活用の研究。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】

- ・情報モラル指導について、世間では犯罪に類する行為が問題となっている。スマートフォンの使用の仕方だけが問題なのではない。指導の範囲を明確にし、悪いことは悪い、としっかりと指導していく必要がある。
- ・保護者から見ても、情報モラルに関しては心配なできごとが多く、問題を防ぐために子どもにきちんと伝えなければならないと思うが、なかなか難しいこともある。学校で、今後もしっかり指導を行っていただきたい。